



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSACA CENTENNIAL

C/O OSACA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHI-KU,
 OSACA, JAPAN

March 2002 No. 9
 Chartered July 20, 1982

標語 YS SLOGANS (2001~2002)	
クラブ会長	『ひろがれワイズ めくもりのある共生社会をめざして』
国際会長	"Building new Y'sdom with the teachings of Jesus Christ" 『イエスキリストの教えに基き 新しいワイズダム建設を』
アジア会長	"Be a Grain into the Ground" 『地中の種となれ』
西日本区理事	"No Dream No Future" 『クラブビジョンを語ろう』
中西部長	『兄弟愛をつづけよう』

クラブ役員 Officers	
会長	: 中村 茂高
副会長	: 畠中 彬
"	: 松浦 孝次
書記	: 山田 孝彦
"	: 畠中 彬
会計	: 三浦 直之
ネット会長	: 畠中ひろみ
Y連絡職員	: 浜野 昌保

月間強調テーマ : 『 EF/JWF 』

《《《《 3月の聖句 》》》》

【 Biblical Message of the Month 】

十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一諸にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、またこの手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一諸にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」(ヨハネによる福音書 20章24~29節)

《《《《 Attention Please 》》》》

1. 3月から、第1例会の会場は東洋ホテル3階・雪の間に変わります。

大阪市北区豊崎3丁目16-19 Tel: 06-6372-8181
 地下鉄御堂筋線・中津駅3番出口から 連絡通路を経て
 徒歩3分(梅田から徒歩約10分)

【 クラブ統計 Statistics 】

2002年2月		種別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員	28名	メン	16名	7名	2月: 切手 236 gr.	2月: 34,200円
例会出席	16名	メネット	6名	名	現金 3,000円	(照本助教授を通じてアメリカン運動へ)
内メークアップ	名	ビジター	11名	名		累計: 121,230円
出席率	57.1%	ゲスト	1.8名	名	累計: 切手 6,629 gr.	(除く、クリスマス献金、
(Attendance Ratio)		合計	51名	7名	現金 28,500円	オークション、記念献金)

《《《《 3月の例会 》》》》

【 March Club Meeting 】

○3月 第1例会

日時: 2002年3月20日(水) 18:30~20:30

場所: 東洋ホテル3階 雪の間

- | | | |
|-----|----------------------------|----------------|
| | 司会 | 池永 洋宣君 |
| 1. | 開会点鐘 | 中村 茂高 会長 |
| 2. | ワイズソング | 一 同 |
| 3. | 聖句朗読 | 栗山 佳三君 |
| 4. | 今月のテーマ | 栗山 佳三君 |
| 5. | 日々の糧・晩餐 | 一 同 |
| 6. | 「アメリカン子どもサミット」の
検討経過の報告 | 中村 茂高 会長 |
| 7. | 「奈良の在日外国人の現況と国際プログラムの体験」 | 奈良NPOセンター・スタッフ |
| 8. | お誕生日祝い | 一 同 |
| 9. | ニコニコ献金 | ドライバー |
| 10. | その他連絡・報告 | 各 担当 |
| 11. | 閉会点鐘 | 中村 茂高 会長 |

○3月 第2例会

日時: 2002年3月27日(水) 18:30~20:30

場所: 大阪YMCA土佐堀館9F

* 3月例会当番 第2班 (栗山、池永洋、中村隆、谷川俊、浜野)

* 3月お誕生日 Happy Birthday!!
 松浦君 22日、鈴木君 26日、谷川有メネット
 17日、中村珠メネット 25日

今年のイースターは4月ではなく3月31日の日曜日です。キリスト教の教会暦には、クリスマスのように12月25日と決まった日に守られる「固定祝日」に対して、年毎に日が変わる「移動祝日」があり、イースターはこれに当たります。キリスト教はイエス・キリストがお生まれになった時から始まったのではなく、キリストが墓からよみがえった時（復活）から始まったので、キリスト教の最大のお祭りはクリスマスではなく、イースターなのです。

ところで、多くの人々にとって不思議なのは、聖書がイエスの復活を「事実あったこと」として記述していることや、現代でもなおキリスト教徒がそれを信じていることでしょう。

本日の聖句にあるトマスのように見なければ信じない人や、他の事は別としても復活だけは信じられないという人も少なくありませんが、イースター理解は、確信をもって語る聖書のキリスト復活の証明を認めるかどうかにかかっていると云わねばなりません。

(聖句選、コメント：田中 穰二)

◇◇◇ 2月 第1例会 ◇◇◇

【 Report of the February Club Meeting】

2月20日(水) 18:30-20:30 プリテン：松浦 孝次

● 照本祥敬・琉球大助教授による講演をメインにした「ディファレンスデー」の催し。うれしいことに、メン・メネット 22人、ゲスト 29人という大勢の出席者がありました。ゲストは、昨年5月に講師としてお迎えした仲川順子さんをはじめ、牧師、関西TV青少年育成事業団のスタッフ、他クラブのワイズメン、YMCAのスタッフ・学生、当クラブの家族や知人友人のみなさんで、多士済済。多文化共生や国際交流に関心を持つ人々が多く来られていたのが、印象的でした。

● 冒頭、山田メンがディファレンスデーの意味を解説。続いて、照本祥敬さんから「アメリカンの運動から見える多文化共生社会への課題」と題しての講演がありました。

「アメリカン」とは、米国人とアジア人の両親をもつ子どものこと。日本では、沖縄に集中している。父親が本国に帰って母親と子どもが残されることが多い。国籍の問題(日本国籍の取得が容易でないなど)、教育をうける権利の侵害、進学・就職の困難、生活圏の狭さ。98年母親たちによって開校したアメリカン・スクールの運営の苦勞などの現実。そして「マイノリティと共生できる社会」を創り出していくことがわが国の課題だと説かれました。「アメリカン」についての認識を深めることができました。

● そのあと、軽食をとりながら、ゲストの紹介がありました。なごやかな交流のうちに、問題意識をかきたてられた有意義な一夜でした。

● 皆さまのご協力で、CS(年賀切手)、リーストコイン、TOF(タイム・オブ・ファスト)の3者合計で、67,928円集まりました。

There were totally 22 Y's Men, Y's Menettes, and 29 guests including non Y's Men guests in attendance at the club's February meeting (Feb. 20, 2002)-which was named the "Difference Day Gathering" to promote our activities among prospective candidates.

Mr. HIROTAKA TERUMOTO, an assistant professor of education dept. at Ryukyu University, Okinawa and an expert of the "Amerasian children" issue of Okinawa, spoke about the existing issues of those children who are faced with such crucial matters as acquisition of Japanese nationality, receiving higher public education, finding jobs, etc.

He stressed that it was vitally important to develop the multi-cultural society in Japan where people with different ethnic background could co-exist with local people. We had lively discussion on the subject among us after his presentation.

With emphasis on the Time of Fast and the Community Service activities for the month of February, total amount of 67,928 Yen was collected through donation and contribution of small coins and New Year commemorative stamps among our members. The collected amount was donated to the Community Fund.

◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆

◇◇◇ 2月第2例会 ◇◇◇

【 Report of the February Club Meeting】

2月27日(水) 18:30-21:00 書記：山田 孝彦

● 3月例会プログラム

プリテン当月号P1記載のとおり決定。

● 20周年行事としての「アメリカン子どもサミット」予算の確保の見通しがついたので、今後、クラブメンバーがあげて取組めるように、クラブ内での周知、役割の分担、実行委員会での検討(全体の進行、当クラブとして主体的に担当するプログラムの内容など)を推進していく。またYMCAとの協働をベースにした他の組織との連携を進めていく。

なお、毎月の例会で、報告と意見徴集を行う。

お 知 ら せ

1. 第1例会の会場の変更

3月から、第1例会の会場は東洋ホテル3階・雪の間に変わります。会場の選定・折衝は、藤原・山田メンに尽力いただきました。

2. クリスマス献金ご協力に感謝

ご協力ありがとうございました。土佐堀YMCAの目標額200万円に対し、約190万円と95%の達成率。協力会員の出足が当初よくなかったところ、追い込みで、みなさんには大変ご支援をいただきました。この献金は、YMCAの国内外の事業に有意義に使われます。

3. YYフォーラム事業の推進

5月11日(土) 15時~18時YMCA土佐堀館チャペル「YMCA活動の今日的意義を確認する」がテーマです。

YMCA ニュース

連絡職員・浜野 昌保

★皆さまにご協力いただきました「クリスマス献金」は、大阪YMCA全体で10,060,000円の目標額を越え、2月12日現在で10,078,639円となっています。ご協力ありがとうございました。詳細は大阪青年で報告いたします。

★大阪YMCA早天祈祷会

日時：3月15日(金) 7:30~8:30

場所：大阪YMCA会館 10階チャペル

証し：井上 啓史氏

(日本基督教団大和キリスト教会牧師)

問合せ：大阪YMCA TEL06(6441)0894

2月BFニュース

【Report of the Brotherhood Fund in February】

BF委員長・栗山佳三

◇現金提供者：山田、栗山、中村隆君

◇切手提供者：山田、松浦、栗山、谷川寛、山村、鈴木、中村隆、隅田、田中、三浦君および上月英子様(40g)

★今月の殊勲賞：山田君(65g)

なかのしまクラブ5周年記念例会を祝う

2月11日(月・祝)大阪YMCA会館9階で開催。26人の同クラブ員を含めて、100人を超える人たちが出席して祝いました。親クラブとして、中村会長が祝辞を述べ、わがクラブメンバーは受付を手伝いました。

第1部のセレモニーは厳粛に、第2部は和やかに、そして女性のクラブらしく全体に華やかな雰囲気。運営は、きめこまやかな配慮がいきどいて、なみいるゲストから感嘆の声しきり。わがクラブからは、栗山、鈴木、隅田夫妻、田中、谷川有、中村茂、中村幸、松浦夫妻、山田、山村夫妻の13人が出席しました。

メネット会の奉仕活動

2月13日(水)、「関西ののちの電話」本部の博愛社に集まって、終日、同会の会報約650部の封入・発送作業を行いました。隅田・畠中・福永・松浦・山村メネットと栗山メンが参加しました。

中西部EMCシンポジウム

2月23日(土) 14:00~17:00大阪YMCA会館、テーマは「クラブ活性化に何が必要か」。発題とパネルディスカッション—栗山メンがパネラーとして参加—のあと、分団討議を行いました。当クラブからは、栗山、中村茂、三浦、山田、松浦メンが出席しました。

自然保護の講演会

2月22日(金)夜、土佐堀YMCA(地域活動委員会)の主催。1992年尼崎市の中学校で始まった「ツキノワグマを絶滅させるな」運動と、それを通じて日本がかかえる自然保護の課題について、同運動の創始者である森山まり子氏(中学校の理科教師、日本熊森協会会長)から話を聞きました。

森の荒廃が「熊の絶滅」を招いていること、それは人間を取り巻く自然環境(水、空気等)が破壊されていることに他ならないことを、自発的に生まれた生徒たちの運動と

共に、行政や世間に訴え、いま、森の復元=自然林を創る事業に多くの人達とともに取り組んでおられます。その歩みを、ドキュメンタリータッチで生々しく、感動的に語られました。(以上4項 文責 松浦孝次)



(2月20日「ディファレンスデー」の催して照本琉球大助教授の話聞く会員やゲストの人たち)

◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆

ゲストからのメッセージ(1)

○関心のあるテーマを立てて下さり、現地の生のお話をお伺いできて感謝です。日本人として、「異質」排除、不寛容の体質をどう克服していくか、重い問いかけを受けました。(大阪教会牧師 岡村 恒)

○異なったバックグラウンドや文化をもった人たちを受け入れない、または同化してしまおうという日本社会を、多文化共生社会へ変えていきたいと思っています。アメラジアンではないですが、奈良に暮らす多様な文化・言語・価値観をもった子どもたちのことを思いながら、照本先生のお話を伺いました。とても分かりやすく理解できました。ありがとうございました。

(ならNPOセンター代表 仲川 順子)

○沖縄の抱える問題が、実は私達にも大いに関連があることがよく分かりました。ありがとうございました。

(ならNPOセンター 仲川 元庸)

○今日は大変興味深いお話、ありがとうございました。日本のこと、沖縄のこと、大阪のこと、これからも考えていきたいと思います。(大阪YMCA 浜本裕子)

○昨年11月に統括本部に異動して間もないので、勉強のため参加させていただきました。これからは都合がつけば参加したいと思います。(大阪YMCA 田尻忠邦)

○今日はいいお話をきかせていただきありがとうございました。また久しぶりに色々な方にお会いできて楽しいときをすごすことができました。(大阪YMCA 後藤規久子)

○沖縄のアメラジアン現状や彼らをサポートする人々の活動などを聞いて良かったです。「アメラジアン」と聞いていつも沖縄のアメラジアンだけを思い浮かべていた自分に気付きました。狭く物事を考がえるのではなしに、広い視野をもってこの問題を考えていきたいです。

(大阪YMCA 池田絃子)

○ジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレンの問題に関わっているの、大変興味深かったです。フィリピンでもスービック前米軍基地あとに多くのアメラジアンがいましたので、彼らに思いを馳せることが出来ました。また情報をお寄せください。(大西 志麻里)

ゲストからのメッセージ (2)

- チャーター20周年に向けての本日の例会、「アメリジャン」あまり聞きなれなかったことでしたが、よく分かりました。基地問題を抱える沖縄にとって、また日本社会全体の問題として、今後とらえていきたい思いになりました。
(中西部長 尾崎 琢磨)
- アメリジャンとなる子供達に夢を持てるよう力になればと思います。
(大阪セントラル 横田 憲子)
- アメリジャンの話に興味深く聞くことができました。6月の東日本区大会の参加も楽しみにしています。
(東京目黒 坂本 哲朗)
- なかのしまクラブ5周年には沢山の方がご出席くださりましてありがとうございます。アメリジャンのことは全く知らなかったので、お話をうかがうことができ、出席してよかったと思いました。
(大阪なかのしま 松下 広子)
- アメリジャンの問題の多さとむつかしさを感じました。ゆっくりゆっくりではあると思いますが、ご努力されますように。
(大阪なかのしま 吉岡香代子)
- 新しい勉強ができて有難うございます。厳しい現在の社会とおもっていましたが、沖縄の方達には自分の知らない苦労があることを知りました。みんなで助け合う社会になりました。力を合わせてみんな幸せになれるよう祈ってやみません。
(大阪長野 今井 利子)
- 前々から沖縄の事について考えていました。問題が広く大きく深刻ですが、なんとか少しでも沖縄の方達がお幸せになるようお祈り申し上げます。いいお話を聞くチャンスをお与えくださってありがとうございます。
(大阪 三品 ミチ子)
- 日の当たっていない問題(AmerAsiann)に取り組んでおられること、結果として、日本人の異質文化への無理解を浮び上がらせ、真の共生社会を目指すことに感心しました。
(大阪ヴェクセル 松本 武彦)
- 人間として心から向かい合って平等な気持ちで接し合える事は大変難しいと思いました。孫が出来て将来の事を案じつつ、また一歩から始めたいと思います。ありがとうございます。
(豊中 松田 洋子)
- 沖縄は基地問題ばかりがクローズアップされているが、その裏にはもっと人権に係わる大きな社会問題があることを改めて知りました。ディファレンスデーの参加は、前回の奈良 NPO 仲川さんのお話について 2 回目ですが、大変勉強になりました。次回も楽しみにしています。
(奈良 平井 洋三)
- 本日は貴重なお話をありがとうございます。「アメリジャン」という言葉さえ知りませんでした。照本先生のお話はわかりやすく勉強になりました。
(大阪センテニアル・コメット 松浦 靖直 & 理恵)
- 昨年、大阪市青少年国際交流協議会から韓国に行ってきました。とてもよい経験になりました。今年の夏のボランティア活動もよい経験にしたいです。
(大阪センテニアル・コメット 中村 舞)

“ごぶさた”メッセージ

- 新編成の連絡網をありがとうございます。新役員も決まり、いつも欠席ばかりで申し訳ありません。(池永 洋宣)

会員からのメッセージ

- 2月8日~12日まで例年どおり赤倉スキー場で思いきりスキーを楽しんできました。健康に感謝。(湯浅 充章)
- 今月、3年がかりで四国八十八ヶ所巡礼が満願となりました。健康に感謝しております。
猫の声 恋心かと 思いけり (山村 幸明)
- 中村会長を通じて「アメリジャン」について少しは予備知識を持っているつもりでしたが、今日のお話でまだまだ表面的な理解にすぎないことがわかりました。今後この問題への取組みを進めることで、さらに理解を深めたいと思います。
(山田 孝彦)
- ディファレンスデーに多勢の方々が参加されよかったです。アメリジャンの国籍の問題が大きいことが理解できました。
(三浦 直之)
- アメリジャンをめぐる問題について啓発された。彼らを取り巻く現状は厳しいとはいえ、彼らこそ新しい意味での国際人になる資格がある、といえないだろうか。
(松浦 孝次)
- 今日の多文化共生社会の問題、私達の心の狭さを改めて知りました。寛い心の大切さを思います。(福永 滋子)
- アメリジャンについての認識を深める事ができて感謝。上月英子さんから今年も沢山の切手を頂き、いつも覚えてくださって喜んでます。
(福永 嘉彦)
- 大盛況の例会で何よりでした。土佐堀YMCAの様々な活動にもご支援をよろしくお願ひします。(浜野 昌保)
- みんな幸せになって欲しい。何か私も手伝いたいです。
(中村 幸枝)
- ワイズの関係者以外を招いての集まりは、ワイズの活動を知ってもらうためにもよい機会であったと思います。
(谷川 寛)
- ディファレンスデーにはじめて参加しましたが、なかなかよい試みだと思います。
(田中 穰二)
- アメリジャンとの交流が楽しみです。先日、中西部メネット会「レクリエーションのつどい」に参加しました。今、そしてこれからのメネット会について親しく話し合い、後半のレクリエーションを楽しみました。また使用済みテレカが1千数10枚たまりましたので「日本ヒアリング協会」に送りました。
(隅田 恵子)
- アメリジャンの子供らに心からの「大きい愛」を送りたい。
(鈴木 謙介)
- 照本先生のお話をお聞きして、私の1969年の吹田での障害児の日曜教室(小学校にもいけず、養護学校にも行けない子をあつめての教室→のちに吹田市杉の子学園になる)のことを思い出しました。ありがとうございます。教育、学校卒業後の結婚・就職・余暇のことが、次の長い、大きい課題です。
(新保 正秋)
- この6月沖縄に行く予定ですが、アメリジャンのことを今日学んで、今回の沖縄行きにプラスにしたいと思います。
(坂本 千春)
- 当クラブ20周年記念事業「アメリジャン交歓会」を前に、いい話を聞かせていただきました。(栗山 佳三)
- アメリジャンの問題は日本の中の国際問題だと思いました。(追伸) 黒田さんは本日退院されました(2月20日)
(鎌田 史朗)
- 新しいことがわかってくると、もっと何かやる必要があるのでないかと模索しているところです。(石津 雅人)